

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

(中学校)

- ・生徒会活動としてユニセフ募金を実施しました。
- ・文化祭での収益をユニセフ募金に送りました。
- ・巡検と称した地元の山・自然に親しむ活動を行いました。
- ・総合的な学習の時間を利用して系統性を考慮した探究的な学習（国際理解や環境学習などのワークショップ、体験学習活動、国際交流等）を数度行いました。

例えば、

①中学1年生の事例

～ 爽やかな秋晴れの下、大いに自然と触れ合いました～

10月14日(水)、1年生は「SR秋巡検」で錦秋の泉ヶ岳方面へ出かけました。今回の学習は、春巡検でグループごとに設定した「我々の木の観察」と焼河原での「石英採集」と「化石採集」でした。仙台駅をバスで出発し、泉ヶ岳に到着した生徒たちは早速、我々の木の下（もと）へ。春とは違う装いの木を見つけるのに苦労するかと思いきや、すぐに生徒たちは自分たちが決めた木を見つけ、木の高さや幹の太さの測定、照度の測定、地表の観察、葉の形状観察等、多彩なメニューに段取り良く取り組みました。そして、季節の移ろいのなかで自分たちの木が変化していることを感じ取っていました。

やや早めの昼食をとった生徒たちは、次に泉ヶ岳から焼河原へ移動。まずは石英の採集に取り組みました。広瀬川凝灰岩の露頭に向き合った生徒は、ハンマーとたがねでちょっと光る石を見つけるとは掘り出し、長さが7mmの石英を採集した生徒もいました。その後、5分ほど上流へ移動し生徒たちは竜の口層へ。地層の露頭のみならず河底まで化石が露出している様子に生徒たちは驚いていました。作業開始の指示が出るや、生徒たちは多少水に濡れることはお構いなし、一心不乱に化石を掘り起こしていました。「タカハシホタテ」や「センダイヌノメハマグリ」など貝類の化石を掘り出し、生徒たちは笑顔を輝かせていました。

生徒たちは、今回の秋巡検でもとても有意義で充実した時間を過ごすことができました。こうした魅力的な学習プログラムを展開できるのも中高一貫教育校の大きな強みであると思います。



竜の口層



我々の木の観察



石英の採集

～ 食料事情を通して、世界の国々の状況について理解を深めました～

10月に中学1年生では6・7校時の総合的な学習の時間に、「世界を知る」の活動として『地球の食卓』の授業をワークショップ形式で行いました。前回の『世界がもし100人の村だったら』同様、山形のNPO法人IVY（アイビー）の職員の方と留学生のみなさん合せて10名に講師をお務めいただいたことで、生徒たちの関心や意欲を高めながら授業をスムーズに進めることができました。

生徒たちは、各教室でグループをつくり、配られたそれぞれの写真を食い入るように見て、「どこの国なのか」「食べものにどのような特徴があるか」「家族構成はどのようになっているか」「そして1週間にかかる食費はどのくらいか」といったことを、熱心に考え、話し合っていました。それぞれのグループが話し合った内容を発表した後、代表生徒が感想を述べました。そのなかには「日本の当たり前が、世界では当たり前でないことが分かった」「口にすると食料の量が国によってこんなに違うことに驚いた」といった発表がありました。「本当の豊かさとは何か?」「日本が置かれている立場は?」「日本ができる国際貢献とは?」などについて深く考えることができました。

また、中学2年生では『貿易ゲーム』を実施しました。



②中学2年生の事例

～中学2年生「水問題」をテーマに、自由な発想で研究発表を行いました～

7月17日（金）、二華会館を会場に2年生は「SRポスターセッション」を行いました。すでに7月7日（火）の授業参観でも保護者に対して発表しており、今回の1年生に対する発表は2回目になります。反省点を生かして、笑顔ではきはきと説明していました。

「ろ紙の種類による透明度の違い」「世界を支える『浮力』とは?」「転太郎君を助ける!～水と片栗粉の最強コラボ」「水で柔らかい肉をつくらう!!」「プロジェクトZ～水と建築物の戦い～」など、生徒たちは自由な発想で課題を設定し、地道な実験で仮説の検証を行い、自分たちなりの結論を導き出していました。また、演出の工夫も、ドラマ仕立てで楽しく発表し、1年生の笑いを誘っている班もありました。

講評では、宮城教育大学大学院教授の先生から、「それぞれの班が工夫を凝らしていて楽しい発表でした。数値化することに苦労したと思いますが、数値を比べることは大事なことで研究では重視してほしい。ある班は肉の柔らかさを測定するために、つまようじに一定の重さを課して測っていて面白いと思った。また、追求するためには単純化することも大事。あまり複雑にしないことを心がけてほしい。」と2年生に向けたご指導がありました。また、1年生に対しては「研究は準備が大事。今日の2年生の発表を参考に、今から意識して来年を迎えてほしい。」とのご助言がありました。2年生にとっても、1年生にとっても実り多い2時間になりました。



～ 1年生での学びをもとに、世界の現状認識を深めました ～

9月4日（金）、中学2年生は総合的な学習の時間に、外部講師の先生方をお招きして「貿易ゲーム」を行いました。「貿易ゲーム」は、「世界の貿易や経済のしくみを知るとともに、その問題点や今後解決すべき課題（南北格差、経済支援、産業廃棄物、環境破壊など）に気づく」ことを目的としており、生徒は各クラスで5人1組のグループに分かれて活動しました。ルールは「暴力や盗みはいけない」という1つだけ。各グループには袋が1つずつ配られます。袋の中のものを使って、指定された形を作ってマーケットへ売りに行きます。実は袋の中身はグループごとに違ってきます。

開始早々、グループ間での交渉や取引が活発に行われ、クラス内ではあっという間に取引のための言葉が飛び交うようになりました。様子を見てみると、黙々と形をつくる役、交渉する役、他のグループの様子を偵察する役など、自然と役割が分担され、本当の国のように活動するグループもありました。

最後に講師の先生方から「このゲームを通して起こっていることが、現実の世界でも起こっている。そのことにも想像力を巡らせて行動することが大切だ」というお話をいただきました。授業後、生徒たちからは「もっとやりたい」という声が聞かれました。



③中学3年生の事例

～ 中学3年生11名が、フィールドワークで訪ねたヨシ原での体験活動に参加しました ～

去る12月6日（土）、(株)トヨタマーケティングジャパンが主催、7月の北上川下流域フィールドワークでお世話になったNPO法人リアスの森が共催、(有)熊谷産業が協力した「岩手県・宮城県：みんなの北上川流域再生プロジェクト新しい北上川をつくっていこう。」の「第3回：津波で被害を受けた河口の再生をめざして、ヨシ刈りをしよう！」に、中学3年生11名（男子5名、女子6名）が参加しました。「7月に北上川下流域フィールドワークで植栽したヨシはどうなっているのだろう？」「ちゃんと根付いて育っているのだろうか？」そんな思いを抱いての参加でしたが、対岸を走るバスの中からの確認となり、各々が「あの辺だったかなあ？」と目を凝らしていました。

11名は、午前中に「ヨシ刈り体験」、午後に「ヨシを使った門松づくり体験」に取り組んだ後、「ヨシ原再生活動の意義についての講話」をお聴きし、改めてヨシの果たす役割の大きさと環境保全の大切さを実感していました。11名からは「体験した内容を次年度以降に生かしてもらいたいのので発表の機会を」との申し出があり、1月に行いました。



ヨシ刈り体験の様子

(高等学校)

- ・高校1年生環境学習、持続可能な開発のための学習として、北上川フィールドワーク（全員参加）を1泊2日で実施した。
- ・高校1年生では国連システムの理解、また言語活動の充実を狙いに、「模擬国連」活動を数時間にわたって実施。
- ・中学3年生+高校1, 2年を対象に「グローバルリーダー養成講座」を実施。
- ・高校1, 2年生20名がアメリカ・デラウェア州の姉妹校を訪問、国際交流・国際理解を深めた。
- ・高校2年生の希望者がメコン川フィールドワークに参加した。
- ・高校2年生全員がマレーシア・シンガポールまたはグアムに分かれ、探究的な課題を設定して現地での体験活動等を行った。
- ・国連協会が主催する国際理解に関する弁論大会（宮城県大会）に高校1, 2年生5名が参加し、全員が入賞を果たした。
- ・JICA研修で来日していたアジア・アフリカ地域の教育関係専門家らを受け入れ、高校生と交流し、国際理解・国際協力の意識を高めた。
- ・英語部の活動として、ネパール大地震の被災地に応援メッセージフラッグを作成、現地の学校に贈呈した。
- ・有志生徒が2月に発生した台南地震への義援金募金活動を実施、地元の公的団体を通じて寄付した。

① 高校1年生の事例

9月27日（日）、28日（月）の1泊2日、テーマ学習「世界の水問題」の一環として、高校1年の北上川フィールドワークが行われました。目的は、北上川沿いにある水に関する施設を視察し、それぞれの歴史や役割等を直接見聞きすることを通して、日本における水問題についての理解を深めることです。今年度は主に歴史郷土・防災・自然・環境の4つのテーマに分けて学習活動を行いました。ここで学び、調べたことをレポートにまとめ、10月下旬以降の課題研究に結びつけることとなります。

1日目の午前は、2クラスが岩手県一関市にある北上川学習交流館（あいぽーと）での防災学習をして、4クラスが焼走り溶岩流での岩石観察を行いました。午後は、全員で八幡平市にある松尾鉦山跡地での植樹活動を行う予定でしたが、突然の雷雨のためやむを得ず中止になりました。環境保全活動の一環で今年で8回目になる植樹活動を行えなかったのが非常に残念でした。夕方には独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）松尾管理事務所所長をさしていらっしやる浅野英郎先生に旧松尾鉦山新中和処理施設で行っている松尾鉦山跡地のpH2.2の強酸性水をpH4.2まで中和する処理について施設の説明も交えながら講義をいただきました。

2日目は6クラスが2クラスずつ3班に分かれ、A班は八幡平市にある岩手県内水面水産技術センターで日本百選にも選ばれた金沢清水の豊富な地下水を使った養殖研究を学習し、その後奥州市の胆沢平野で昔起こった水争いなどについて胆沢平野土地改良区の担当者の方にガイドをして頂きながら徳水園やその周りを見学しました。B班は緩速ろ過方式と急速ろ過方式の両方を取り入れている米内浄水場を見学し各家庭に安全な水をどのように供給しているのかを学習し、その後に北上川学習交流館で学習しました。C班は四十四田ダムでダムの役割と水力発電について学習し、その後に北上川学習交流館で学習しました。どの班も大変有意義な学習をすることができ、後日実施した事後

報告でグループごとに報告会をして報告書を作成しました。



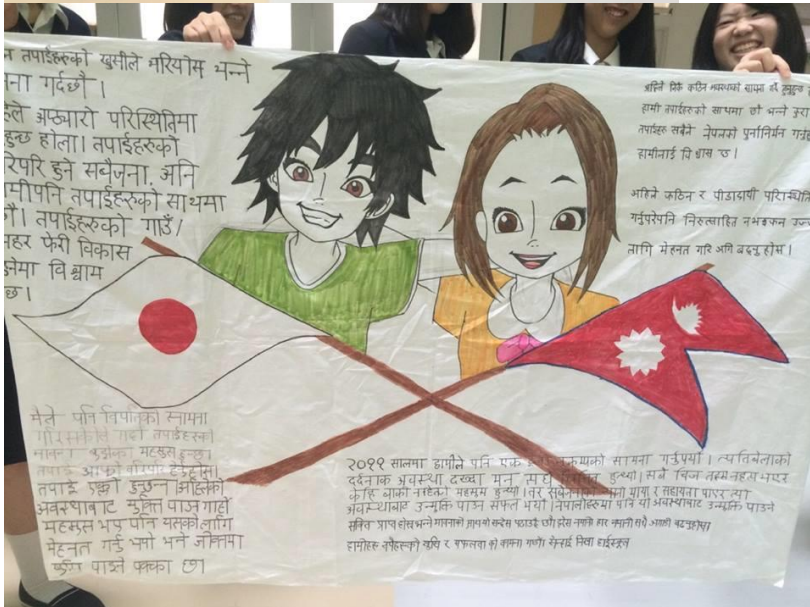
米内浄水場の緩水ろ過施設



徳水園周辺の取水口

② 英語部の事例

NPO との連携し、部活動の一環として、所属部員から立ち上がったプロジェクトでした。ネパール大地震で被災した児童・生徒に応援メッセージフラッグを作成し励まそうとするものです。私たちも東日本大震災の時に世界中から支援をいただきました。今度はそれを返す番です。在仙の留学生（東北大学）の協力で私たちのメッセージをネパール語に訳してもらい、それを部員全員で手書きし、NPO を通して現地に届けることができました。自分たちにできる国際協力について考え、まだ行動に移すことの大切さを学ぶことができた有意義な経験でした。このフラッグで少しでも元気が出てくれる人がいればとてもうれしいです。



メッセージはすべて手書き

③ 有志事例

2月6日に台南で発生した地震への義援金募金活動を、昨年仙台市の国際交流事業で台南を訪問した本校高校生らが有志で行いました。活動は2月15～17日に行われ、集まった義援金は仙台市観光国際協会（SAENTIA）を通して寄付しました。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 部活動(英語部)の一環として。文化祭の中で。
長期休業中の活動として ）